

平成25年ホヤ類調査結果速報 No. 5

平成25年11月6日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

協力機関：渡島中部地区水産技術普及指導所

渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

10月9日～29日に、噴火湾周辺沿岸の各地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 調査を行った全地区でヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1、2）。
- 今年のヨーロッパザラボヤの付着は虻田～落部地区が中心となっており、ホタテガイ1枚あたりの平均付着重量が50gを超えている層もあります（図1）。これらの地区では、今後も状況に応じて貝洗い等を検討してください。
- 長万部～落部地区では付着個体数が比較的多く、体長15mm未満の小型個体の占める割合が高い地区もあります（図2、3）。これらの地区では、今後、付着個体の成長に伴う付着重量の増加に警戒して下さい。
- 平成25年の付着状況を昨年と比較すると、昨年よりも地区間の差が大きく、付着量の多い湾奥部（虻田～落部地区）では、昨年並～昨年を上回る付着量、付着量の少ないそれ以外の地区（伊達、森～南茅部地区）では、昨年並み～昨年を下回る付着量となっています（図4-1、4-2）。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL:0138-57-6074 FAX:0138-57-5991

耳吊りホタテガイ付着物調査

〔調査月日：10月9日～29日、調査地区（伊達、虻田、礼文、長万部、八雲、落部、森、砂原、鹿部、南茅部）〕

ホタテガイを1連から上層、中層、下層ごとに5～10枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いた観察により、付着物の識別、採取を行いました。付着物重量の測定は全てのサンプルで、ヨーロッパザラボヤ個体数の計数および体サイズ測定は各層3～5枚で行いました。

1) 付着重量と付着個体数

付着量（重量）は、虻田地区（中層、下層）、八雲地区（中層）で多い結果でした（それぞれ平均60.1、56.2、53.8g/枚）（図1）。付着個体数は、落部地区（中層）、八雲地区（上層、中層）で多い結果でした（それぞれ平均44.0、28.0、26.2個体/枚）（図2）。

図1 各地区の付着生物重量（平成25年10月9日～29日）

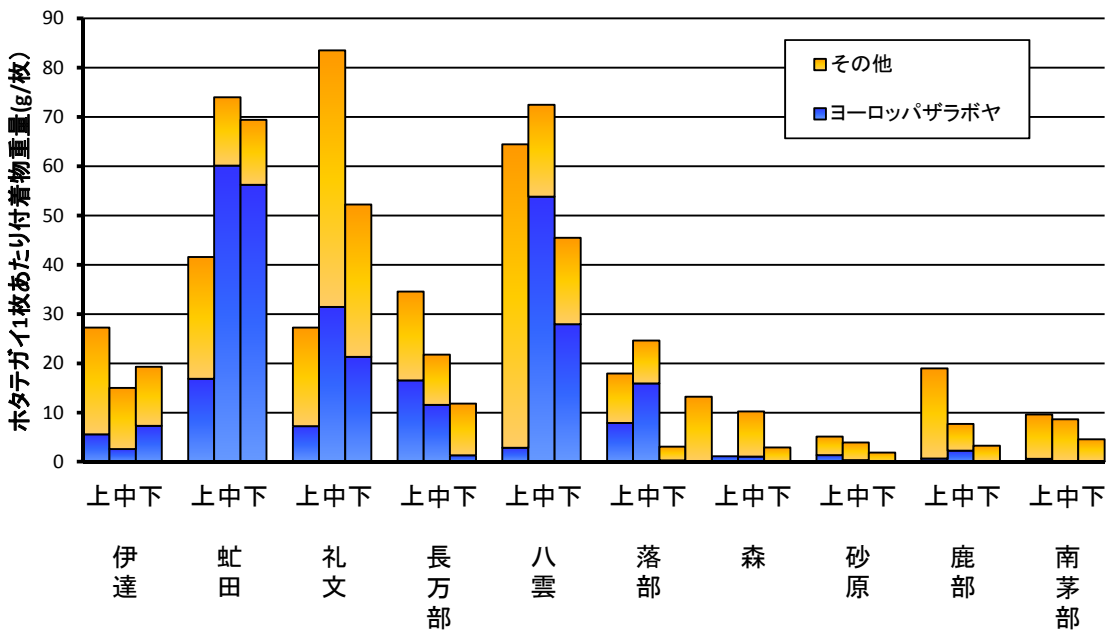
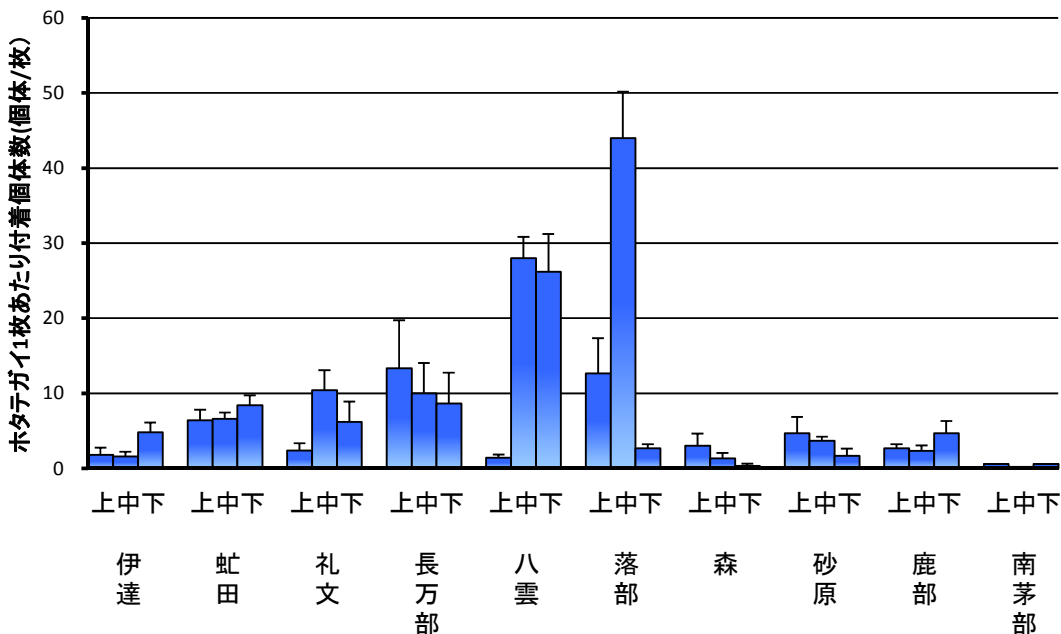


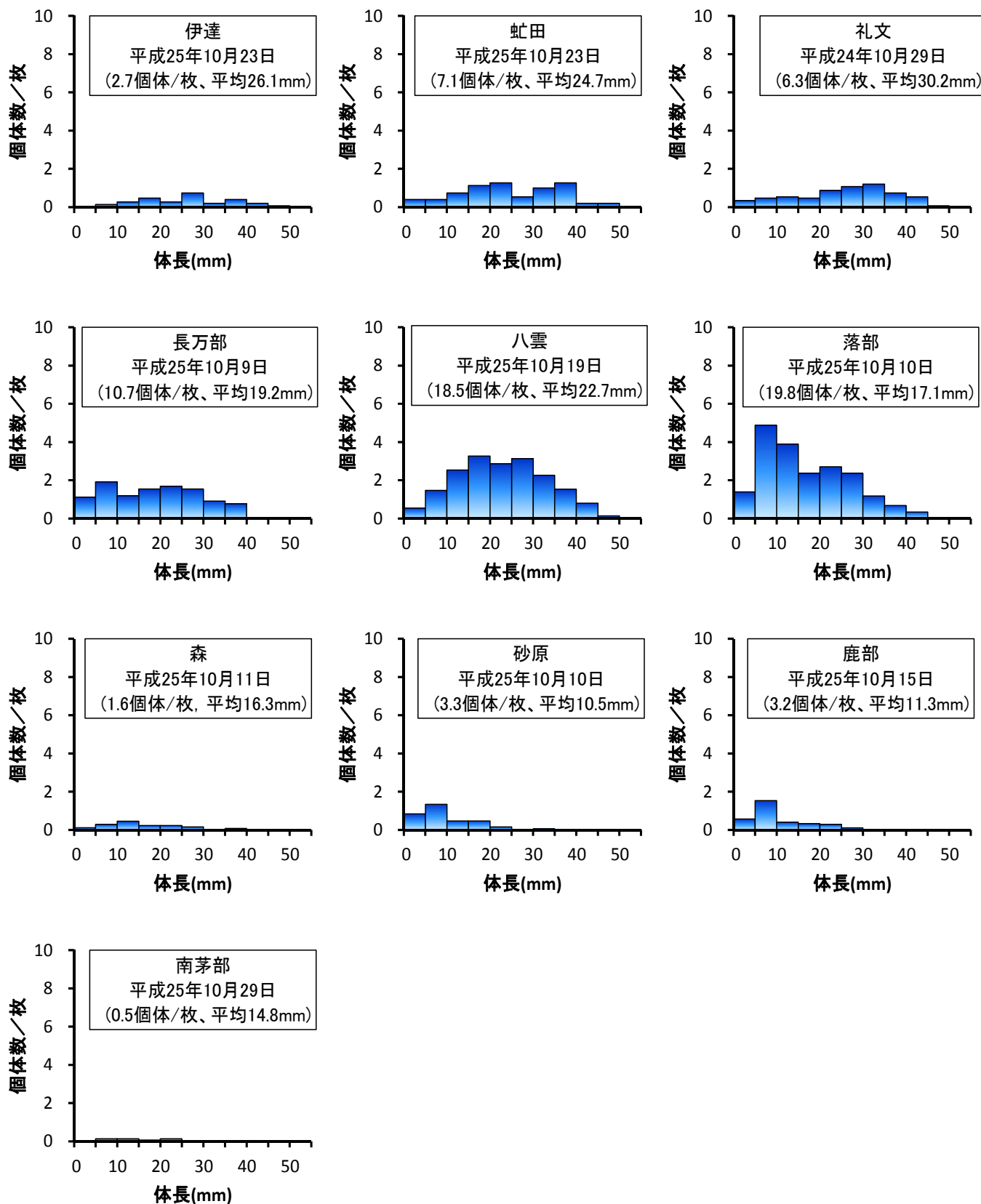
図2 各地区のヨーロッパザラボヤの付着個体数（平成25年10月9日～29日）



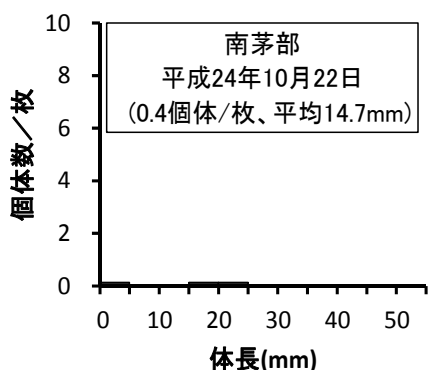
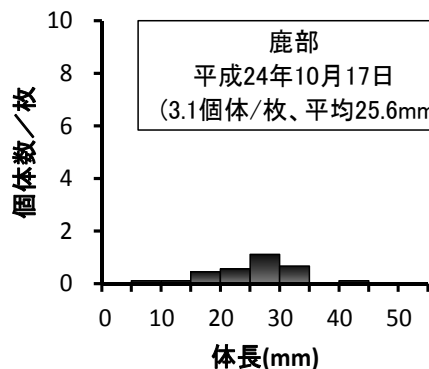
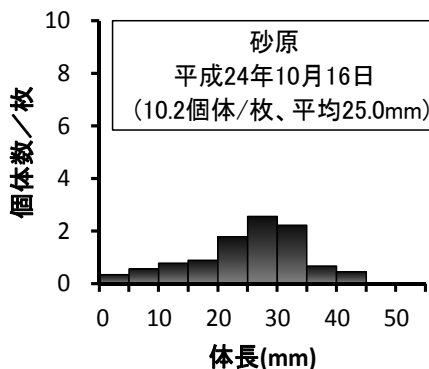
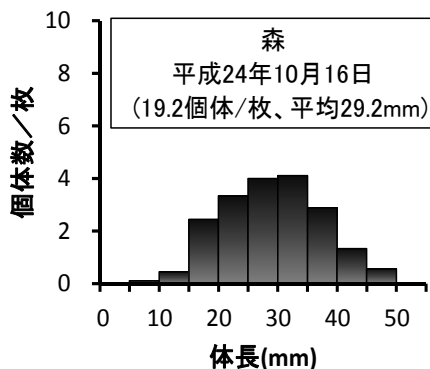
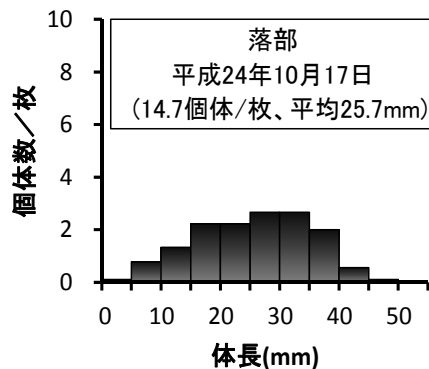
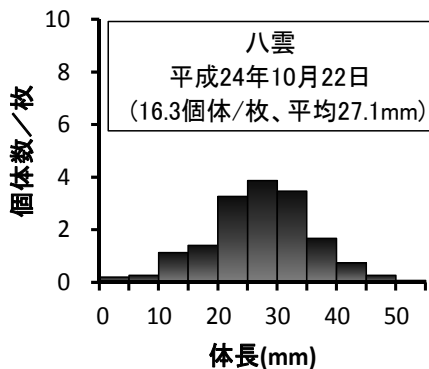
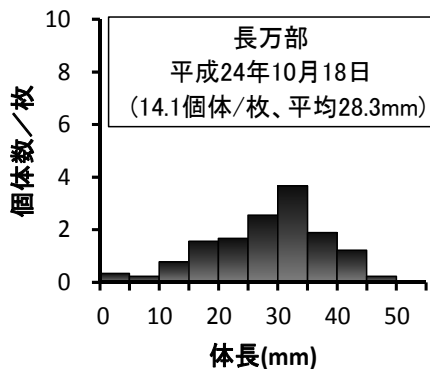
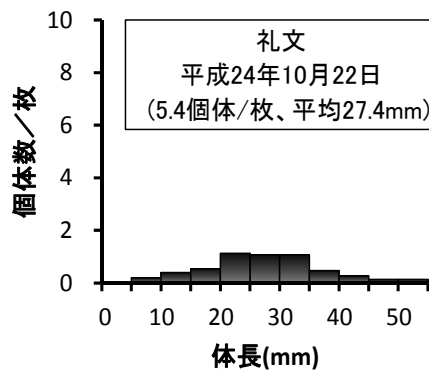
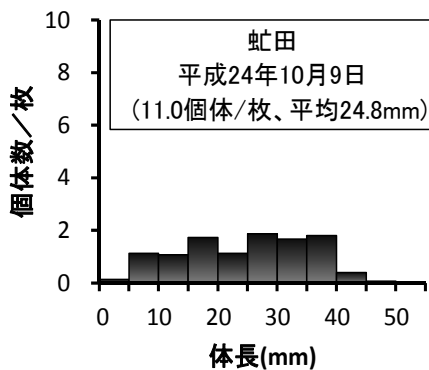
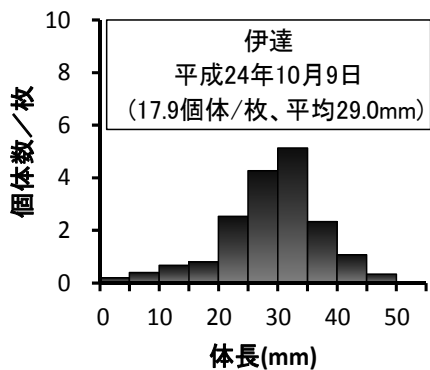
2) サイズ組成

サイズ組成は、伊達～八雲地区は 15mm 以上の個体が中心、森～南茅部地区では 15mm 未満の個体が中心となっています（図3）。また、昨年同時期よりも、平均サイズが小さい傾向が認められます。特に、落部～鹿部地区では、5～10mm が最も多く、昨年よりも遅い時期に付着した群があったと考えられます。

図3 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（平成25年10月9日～29日）



参考 昨年のヨーロッパザラボヤのサイズ組成 (平成24年10月9日~22日)



3) ヨーロッパザラボヤ付着状況（10月）の昨年との比較

伊達地区や森地区のように昨年と比較して、ヨーロッパザラボヤの付着量が減少した地区が目立ちます（図 4-1、4-2）。一方、八雲地区や落部地区では、昨年を上回る個体数が付着しており、貝洗い等の対策が重要です。全体的に見ると、今年は付着量の地区間の差が大きく、局所的な付着被害に注意が必要です。

図 4-1 H24 と H25 の各地区ヨーロッパザラボヤ付着重量の比較

（調査期間：平成 24 年 10 月 9 日～22 日、平成 25 年 10 月 9 日～29 日）

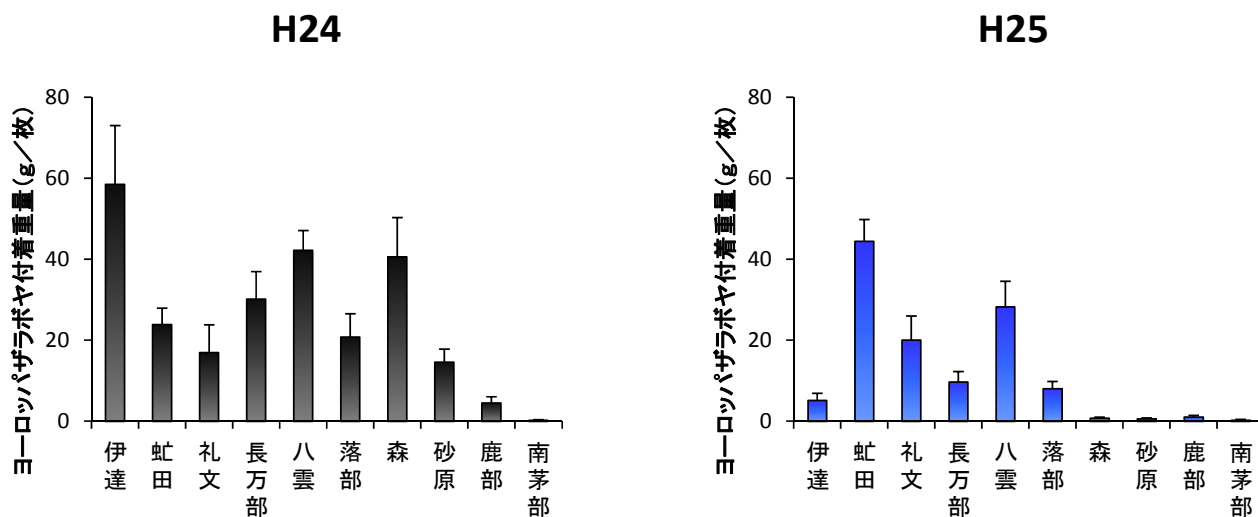
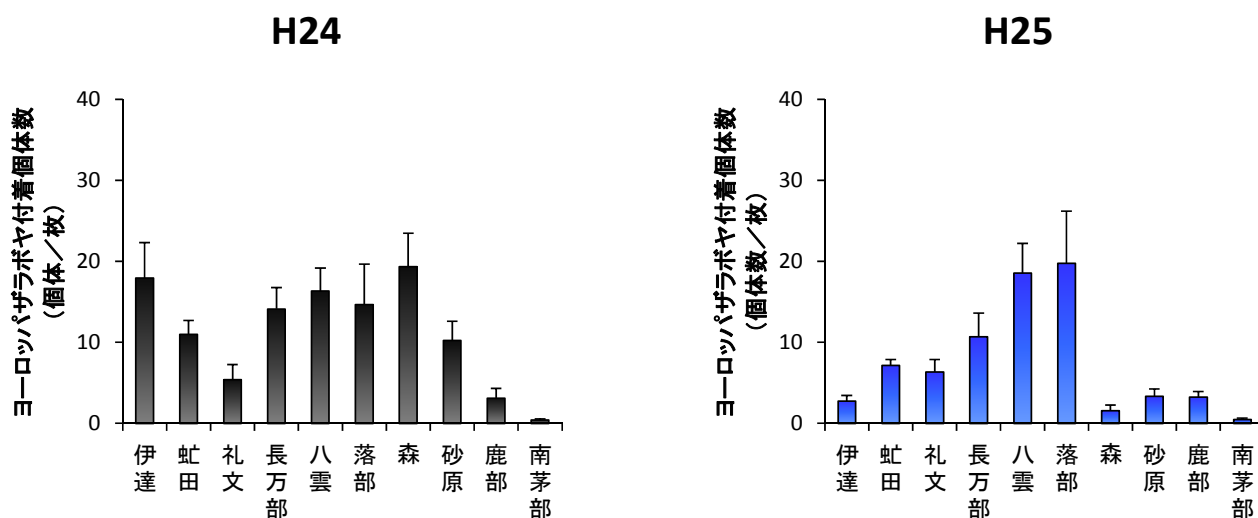


図 4-2 H24 と H25 の各地区ヨーロッパザラボヤ付着個体数の比較

（調査期間：平成 24 年 10 月 9 日～22 日、平成 25 年 10 月 9 日～29 日）



噴火湾の「ザラボヤ」に関する参考資料について

平成 20 年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ（通称「ザラボヤ」）は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法等については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- ・金森誠：噴火湾のザラボヤの正体－外来種ヨーロッパザラボヤ－（試験研究は今 No.707）
- ・金森誠：外来種ヨーロッパザラボヤの道内の分布について（試験研究は今 No.731）
- ・金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について（北海道水産試験場研究報告 81：151-156）

4) 各地区付着状况



伊達地区 (中段)



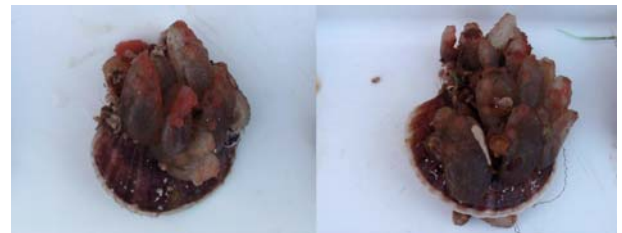
虻田地区 (中段)



礼文地区 (中段)



長万部地区 (中段)



八雲地区 (中段)



落部地区 (中段)



森地区 (中段)



砂原地区 (中段)



鹿部地区 (中段)



南茅部地区 (中段)